1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400079		
法人名	株式会社Lily's		
事業所名	グループホームごんの里		
所在地	愛知県半田市岩滑町2-22		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理 日 平成23年	3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2392400079&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成23年2月14日

4. ほとんどいない

4. ほとんどいない

1. ほぼ全ての利用者が

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間らしい生活、アットホームな環境を提供している。時間がゆっくり流れるのを感じていただけるよう、お年寄り本位の生活を心がけている。毎日動きのある生活を送って頂けるよう、外出行事をなるべく多く取り入れ、買い物や喫茶店など、気軽にいけるところは頻繁に出掛けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム代表者(管理者)は、自身の特養での勤務経験から、自分自身を成長させてくれたという思いから、自分でグループホームを立ち上げ、一人ひとりに寄り添った支援をしたいという思いから、当ホームを開設した。ホームは、木のぬくもりをふんだんに活かした造りであり、ホームリビング、廊下、居室にも、木が使われてあり、落ち着いた雰囲気をつくっている。さらに、浴槽も檜風呂であり、お湯をはると、湯気とともに檜の香りが漂い、気分良く入浴することが出来る。また、利用者に対しても、職員が火気の安全確認を充分に行いながら、利用者が喫煙することも受け入れており、食後の一服を至福の一時にしている方もいる。職員が一人ひとりに寄り添いながら、その人のしたいことを実現に向けて取り組んでいる様子がうかがえ、開設2年目に向け、更なる向上が期待できるホームである。

4. ほとんどできていない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに〇印 ↓該当するものに〇印 1. ほぼ全ての利用者の 1. ほぼ全ての家族と 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 2. 利用者の2/3くらいの めていることをよく聴いており、信頼関係ができ 2. 家族の2/3くらいと 56 を掴んでいる ている 3. 利用者の1/3くらいの 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9.10.19) 4. ほとんどできていない 1. 毎日ある 1. ほぼ毎日のように 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある 〇 2. 数日に1回程度 57 ある 64 域の人々が訪ねて来ている 3. たまにある 3. たまに (参考項目:18.38) (参考項目:2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 1. 大いに増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 2. 利用者の2/3くらいが 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 2. 少しずつ増えている (参考項目:38) 3. 利用者の1/3くらいが 解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない 4. ほとんどいない (参考項目:4) 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 2. 利用者の2/3くらいが 職員は、活き活きと働けている 2. 職員の2/3くらいが 66 59 情や姿がみられている 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11,12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが \cap 60 67 足していると思う (参考項目:49) 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお 2. 利用者の2/3くらいが 2. 家族等の2/3くらいが 68 おむね満足していると思う 61 く過ごせている 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30.31)

自	自外				西
己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.E	里念し	こ基づく運営			
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	アットホームな環境で『施設』ではなく『家』 でお年寄りと共同生活をしているという意識 を持って生活している。	管理者は、ホームを「施設」ではなく「家」として捉え、アットホームで温かみのあるホームを理念として掲げている。職員も日頃の業務の中で、ホームにとって何が大切であるかを理解している。	理念にある「思い」を当然のこととして 考えているが、今後、新しい職員、家 族、地域住民が増えるときの為にも、 理念を掲げ、ホームにおける支援と は何かを伝える取り組みにも期待し たい。
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	毎日の散歩、地域の行事には積極的に参加し、地域に根付いていけるよう努力している。	町内会に加入し、地区の防災訓練等に参加している。さらに、地区の作品展に利用者の作品を出展するなど、地域との交流に努めている。また、歌、楽器、和太鼓等のボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	実績なし。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	定期的な会議で、地域の方にも参加しても らい、行事報告や、施設の現状など報告し ている。	昨年の開設以来、今年度の開催は4回である。ホームからの報告の他、出席者より、家族交流があったら良いのではという提案があり、昨年12月に、家族交流会を実施し、家族間の交流を深めた。	
5		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも1名〜2名参加してもらい、常に実状を伝えている。	市担当部署とは、困ったことがあったときなどには相談し、助言等を受けるようにしている。さらに、バザーを行った際には、市役所に相談し、テントを借りるなど、日頃の交流に努めている。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	日中は常に開放しており、身体拘束は一切 ない。	ホームで身体拘束をしないことを当然のこととして考え、日ごろから身体拘束をしないケアに努めている。言葉による拘束等、業務を通じながら、管理者や職員が気を付けるように努めている。	今後、介護業務未経験の職員が増えることも念頭に入れながら、研修や勉強会を定期的に行い、当然のことが適切に職員に浸透するように、取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に対する知識は常識的にもっており、 少しの傷も逐一報告書を提出するよう義務 付けている。		

自	外		自己評価	外部評価	西
己	部	7	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう 支援している	実績なし。今後は機会があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族に説明し、入居後も疑問 点があればすぐに対応している。		
			運営推進会議で、家族の意見を聞き、また、定期的に家族会を開いて意見交換の場を設けて反映している。	昨年、家族の提案から家族交流会を実施した。家族は、日頃から定期的に訪問する為、訪問の都度、意見交換を行っている。また、 運営推進会議の資料を送付し、ホームの運営報告を行っている。	2年目に向け、定期的なホーム便りを 発行し、担当者を決めるなどの工夫 を行いながら、家族に日頃の様子を 伝える取り組みにも期待したい。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヵ月に1度、職員会議、カンファレンスで職 員の交流を行い反映している。	職員は、月1回の職員会議やカンファレンスの際に、意見を言っている。さらに、時に管理者が現場とは距離を置き、職員は計画作成担当者を通じて言うことで、管理者が頭ごなしに言わないようにしている。	
12			職員同士の交流が盛んなため、職場の環境について、良いことも悪いことも話し合っている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員の良い所を褒め、伸ばせる所は伸ばし ていけるよう常に意識している。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	あまり機会はないが、今後、他施設研修を 考えている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II .5	えから	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見を尊重して、不安などを受け止め、困っていることがあればその場で傾聴 するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	申し込みの段階で家族の困っていることを 聞き、入居後、すぐ実践できるようにしてい る。現段階ではすべてを受け入れている。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	双方の意見を取り入れ、今をいかに生き生 きと過ごせるかを前提に話し合いをしてい る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという意識は捨て、一緒に 生活をしている、させていただいているとい う意識を持つよう職員に伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	本人を敬う家族が多いため、家族の想う気 持ちを大切にし、慎重に話し合いをしてい る。		
20	` ,	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前勤めていたところや、昔いきつ けだった喫茶店や、知人が勤めているとこ ろに外出として職員と一緒に行ったりしてい る。	利用者の親族が経営している喫茶店に出掛けたり、家族と理美容院や買い物に出掛けている方もいる。さらに、利用者の親族が経営し自身も勤めていた会社に、職員と出掛けたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	グループホームでは珍しく、入居者同士で の会話が垣間見れ、お互い支えあい、たま には喧嘩をしたりしてとてもいい雰囲気で生 活している。		

自			自己評価	外部評価	5
己	部	垻 日	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実践はないが、アフターフォローを大切にし ていきたい。		
${ m III}$.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	F		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常生活の中で入居者とスタッフがのんび り話すことのできる時間があるため、会話の 中で本人の希望を伺いながらケアをすすめ ている。センター方式を活用し、本人の希	ホームでは、センター方式を活用し、最初は 家族に記入してもらい、本人にも聴き出し、 それらの情報をもとにアセスメントを行ってい る。日頃も、入浴、外出時等、1対1になるとき に聴き出してもいる。	
24		努めている	センター方式を活用し、入居の時点から生活暦等の項目をご家族に直接記入していただくようにしている。記入された内容はいつでも見ることができ、サービス担当者会議等でも話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録にて1日の様子、状態等を 把握している。ただし、記録内容が画一的 になりやすく、能力の向上を目指した細か な状態変化や様子についての記入が今後 さらにできるとよい。		
26		い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会にみえたご家族から意向を確認したのち、サービス担当者会議を開催している。スタッフの全員参加を呼びかけ、本人の意向、生活、能力に特化した話し合いを行い、ケアプランに反映している。	利用開始時に、暫定的な計画を作成し、1か月間様子をみて、正式な計画につなげている。それを毎月のカンファレンスを実施することでチェックし、基本3か月毎に見直している。変化がある際には、随時の見直しを行っている。	
27			個別の介護記録に日々の様子や支援内容を記入している。内容によっては専門の連絡帳も使用して把握に努めている。可能な限り細かい内容も取り上げ、ケアプランは3ヵ月毎の見直し時、そのまま継続ではなく必ず作成し直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事への参加や、近所の方々をお招きする行事の開催、社協さん、区長さん、民生委員さんとの連携により、ホーム内のみのサービスではなく地域で支えられる体制作りを目指している。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事、近隣スーパーへの買い物等、できる限り資源を活用している。		
30	(11)	得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し	少しの状態の変化も逐一、主治医に連絡 し、指示を仰いでもらっている。時には、写 真をメールにて送りそれをみて判断しても らっている。	全員がホーム提携医であり、月2回の往診を 受けて、緊急時にも柔軟に対応してもらえる 体制となっている。他科受診は、基本家族の 同行であるが、時には、ホーム職員も同行す ることもある。なお、歯科は随時の対応として いる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している			
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	まだ入院したケースはないが、提携病院の 相談室に定期的に行き、万が一に備えてい る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組ん でいる	入院の際、しっかりと説明した上で、並行し て他施設へ入居の申し込みをしてもらって いるご家族もある。	現段階では、医療面での支援の限界もあり、 看取りはできない状況である。家族とは、 ホームの考え方を伝え、確認を取っている。 しかしながら、今後2ユニット化し、医療面で の体制を強化すれば、重度化への対応も考 えたいとしている。	年数が経過したグループホームでは、重度化への対応が課題となっている。2年目以降の考えとして、重度化への取り組みを深められることにも期待したい。
34		い、天成力を対に同けている	マニュアルを作成、デスクには常に目のつくところに置いてある。また、新人職員には緊急時の対応についてしっかりと説明している。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防点検、年に2回の避難訓練に は職員全員が参加をし、消防署の協力も得 ている。町内の防災訓練にも積極的に参加 している。	方も同席され、地域との協力関係にも努めて	場所でもあり、日頃から地域の方の

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	常に同じ目線で声掛けるよう心がけている。言葉遣いには特に注意し、職員同士でも声を掛け合っている。	管理者は、日頃から、「笑顔、あいさつ、言葉遣い」に注意することを徹底している。一人ひとりを人生の先輩として接し、自尊心の配慮に努めている。管理者、計画作成担当者(リーダー)は、職員に不適切な言動があった際には注意するようにしている。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	嗜好や外出など、常に利用者のニーズを受け入れるようにしている。何気ない会話から本人の希望を聞き出すことをしている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意見を受け入れ、外出なら行きたい所にいく、入浴なら入りたい時間に 入っていただくようにしている。		
39		大援している	時には化粧したり、外出時にはおしゃれをしたりと身だしなみにも気を配っている。女性 入居者の方は、家族に依頼して美容院に連れていってもらっている人もいる。		
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせて、一緒に買い物にいき、好きなものを買って提供している。食事の準備、片づけはほぼ毎食手伝っていただいている。誕生日には本人の好きな食事を提供している。	食材の買い物に利用者と出掛けている。調理は職員が行うが、包丁を使う利用者もいる。さらに、配膳、下膳、洗い、テーブル拭き等、その人のできることに参加している。また、職員も食事に同席し、楽しい食事に努めている。	
41		確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	水分量に制限がある方には少なめにし、減 塩の食事が必要な方にはそのように提供、 調理している。水分量、食事摂取量は毎日 記録にて確認している。		
42		人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケースをしている	毎食後、入居者全員口腔ケアを行うように している。自分でできる方は声かけ、見守り をしている。本人にあった口腔ケア器具を 使用している。		

自	外	項 目	自己評価	外部評価	
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ類は極力少なくし、人間らしい生活を送っていただくよう支援している。無理強いせず、記録などを見て排泄パターンを理解したうえで支援している。	介護記録にチェックを入れ、状況をみながらさりげなくトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に努めている。オムツだった方が、布パンツや紙パンツになり、排泄が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	便秘がちな方が数名いるため、水分強化 や、センナ茶、トイレでの工夫等、主治医の 指示ももらいながら本人に合わせた予防法 を導き出すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後、夕食前、夕食後など、今までの 入浴時間を本人、家族から情報を収集し、 希望に添って入浴していただいている。	入浴は毎日準備し、毎日でも1日おきでも、 利用者が入りたい時に入浴している。拒む 方には、声かけを工夫するが、毎日準備して いるため、強くは言わない。浴槽は檜風呂で あり、時に菖蒲湯、柚子湯等、楽しく入浴で きるように取り組んでいる。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に日中は活動してもらうようにしているが、本人の状態、表情を見て、居室で休んでいただいている。起床時間も本人の生活に合わせて起床してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	個人ファイルはもちろん、飲んでいる薬の名 称、効能、副作用を網羅した表を作成して、 いつでも見れるようにしている。		
48		楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて、できる所まで 行っている。役割を与え、満足感を得られる よう努めている。		
49	(18)	ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族	う、事前に計画を立て、職員配置をしてい	日頃の散歩、買い物等、外出の機会をつくり、その日に声をかけて出掛けることもある。 利用者の誕生日の際には、希望を聞いて、 外食する機会もある。さらに、行事計画を立 て、花見、いちご狩り、水族館等、普段行け ない外出にも取り組んでいる。	

自	外	- -	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		てゐり、一人ひとりの布里やカに心して、ゐ並を 所持したり使えるように支援している	買い物時は、なるべく本人に払ってもらっている。全員事務所で管理しているが、その他に多少の小遣いを本人がもっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	知人に手紙を出したいと言われる方には援助し、電話も本人の希望にそえてしている。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はすべて木を使用し、特にお風呂 は檜風呂を使用している。季節によって花 を生けたり、飾り付けをしている。	リビングは、木のぬくもりを活かしながら、落ち着いた雰囲気をつくっている。左右に居室を配置し、真ん中にリビングを配置することで、利用者が自然と集まってくるように工夫している。また、キッチンが対面式であるため、利用者も食事に参加しやすい。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	日中は主にリビングでテレビを見たり、食堂 で談話をしたりと動きのある生活を取り入れ ている。独りになりたい方は希望にそえて 居室に誘導している。		
54		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	備え付けはエアコンのみとし、ベット、タンス 等すべて今まで在宅で使用した使い慣れた ものを持ち込んでいただいている。畳が希 望の方はベッドではなく畳に布団を敷いて 寝ている。	居室は、戸が障子で、天井にも木が張られてあり、自宅と同じような環境である。自宅からベッド、タンス等を持ち込み、その人に合った部屋をつくっている。また、畳の部屋もあり、自分で布団を敷く、たたむを行っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	新聞をいつでも閲覧できるようリビングに置いてあり、食事作り、洗濯物たたみなど、入居者を巻き込んだ生活を心がけている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームごんの里

作成日: 平成 23年 3月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達月	【目標達成計画】						
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間		
1	6	推進会議の議事録や、行事報告等 を写真も添えて送付しているが、お 便りといった形ではご家族に届いて いない。	現状以上にご家族にホームのことを知って頂くために、写真はもちろん、イラストや文章などでもできるだけ詳しい内容のものを定期的にお便りとして送付したい。		8ヶ月		
2	5	開設して1年未満であるため、勉強 会という形で時間が設けることがで きていない。	日常的に口頭ではあるが、拘束に 対して知識が浅い職員には伝えて いるが、なるべく多くの職員を集 め、勉強会を開催したい。		1ヶ月		
3					ヶ月		
4					ヶ月		
5					ヶ月		